

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

アジア経済は力強さが続く(Asia Weekly (3/29~4/2))

～中印両国では今後も生産拡大が期待され、金融政策の動向に注目が集まる～ 発表日:2010年4月5日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/30 (火)	(ベトナム) 1-3 月期実質 GDP (前年比)	+5.8%		+6.8%
3/31 (水)	(豪州) 2 月小売売上高 (前月比/季調済)	▲1.4%	+0.3%	+1.1%
	(韓国) 2 月鉱工業生産 (前年比)	+19.1%	+24.2%	+36.9%
	(前月比/季調済)	+3.6%	+1.5%	+0.0%
	(タイ) 2 月製造業生産 (前年比)	+30.3%	+28.0%	+29.1%
	(前月比/季調済)	+3.3%		▲5.2%
4/1 (木)	(中国) 3 月製造業 PMI	55.1	55.0	52.0
	(韓国) 3 月輸出 (前年比)	+35.1%	+31.7%	+30.5%
	3 月輸入 (前年比)	+48.4%	+43.0%	+37.5%
	3 月消費者物価 (前年比)	+2.3%	+2.7%	+2.7%
	(前月比/季調済)	+0.3%	+0.7%	+0.4%
	(インド) 3 月製造業 PMI	57.8		58.5
	2 月輸出 (前年比)	+34.8%		+11.5%
	2 月輸入 (前年比)	+66.4%		+35.5%
	(インドネシア) 3 月消費者物価 (前年比)	+3.43%	+3.70%	+3.81%
	(前月比/未季調)	▲0.14%	▲0.01%	+0.30%
	2 月輸出 (前年比)	+57.1%	+64.1%	+59.3%
2 月輸入 (前年比)	+59.9%	+63.5%	+43.8%	
(タイ) 3 月消費者物価 (前年比)	+3.4%	+3.7%	+3.7%	
(前月比/未季調)	+0.2%	+0.5%	+0.6%	
4/2 (金)	(マレーシア) 2 月輸出 (前年比)	+18.4%	+25.0%	+37.0%
	2 月輸入 (前年比)	+27.9%	+34.9%	+31.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【中国】 ～春節明けの製造業 PMI は生産拡大で大きく改善。先行きも生産拡大が見込まれる～

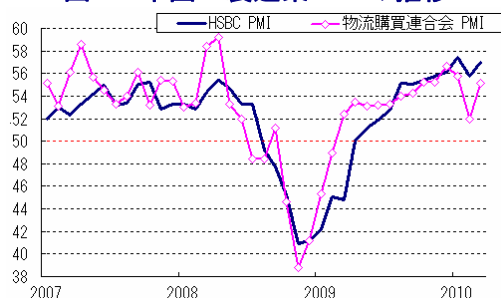
1日に発表された3月の製造業 PMI は55.1と前月(52.0)から3.1p上昇、春節休暇の影響で2月の生産は落ち込んだものの、その後も堅調を維持していることが確認された。すべての分野で数値が改善しており、中でも生産(54.3→58.3)が4.0pも上昇したことが注目される。なお、先行きの生産を示す新規受注(53.7→58.1)や輸出受注(50.3→54.5)でも大幅な改善がみられ、生産の拡大が続くと予想される。

同日にHSBCが発表した製造業 PMI(季調済)も57.0と前月(55.8)から1.2p上昇し、景気拡大の持続を裏付けている。こちらも生産(57.8→58.1)の上昇が続き、新規受注(59.2→61.7)や輸出受注(58.27→58.35)も上昇していることから、今後も力強い生産が続くことを裏付けている。

なお、両指数ともに国際商品市況の高止まりを反映して投入価格に上昇圧力が掛かっており、製品価格に波

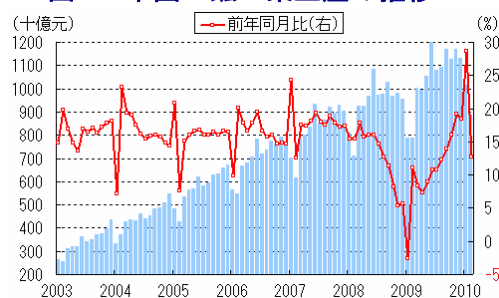
及する動きが徐々に始まっている。2月の消費者物価は前年同月比+2.7%、前月比も+1.2%と上昇圧力が高まっているが、これは寒波による供給制約や、春節による需要拡大によって食料品価格が上昇した影響が大きく、依然コア物価は落ち着いて推移している。しかし、今後は製品価格に上昇圧力が掛かることで、一般物価でも緩やかな上昇を辿ると予想される。

図1 中国 製造業 PMI の推移



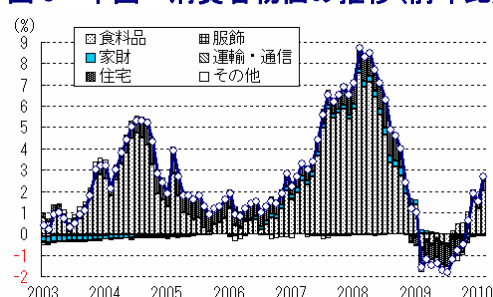
(出所) 中国物流購買連合会、Markit

図2 中国 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC

図3 中国 消費者物価の推移(前年比)



(出所) CEIC

【インド】 ~製造業 PMI は若干低下も引き続き高水準。輸出の回復も続き、生産拡大が続く見通し~

1日に発表された3月の製造業 PMI は 57.78 と前月 (58.46) から▲0.68p 低下した。生産 (64.19→62.95) の鈍化が影響したが、それでも世界金融危機前の水準を上回っており、新規受注 (63.97→62.66) や輸出受注 (56.59→57.12) は堅調に推移していることから、先行きの生産は高水準で推移すると見込まれる。なお、1月の鉱工業生産は前年同月比+16.7%と前月 (同+17.6%) からわずかに鈍化したが、水準は過去最高レベルで推移しており、今後は主要輸出先の欧州経済の底離れによる生産の押し上げも期待される。なお、先月の緊急利上げの背景となったインフレ懸念については、先行きも景気拡大や、高止まりする商品市況の価格転嫁などにより、物価の上昇基調が続くと予想される。したがって、今月 20 日に予定されている定例の金融政策決定会合においても、利上げや現金準備率の引き上げによる金融引き締めが図られると予想する。

1日に発表された2月の輸出は前年同月比+34.8%と前月 (同+11.5%) から大幅に拡大、前月比も+12.2%と前月 (同▲1.8%) から一転して大幅な伸びを示した。景気回復の進む中東やアフリカ、欧州向けの回復が進んでいるほか、アジア向けも拡大が続いている。一方の輸入も、国際商品市況を背景とした輸入額の増加により、前年同月比+66.4%と前月 (同+35.5%) から拡大し、前月比も+1.4%と前月 (同▲0.2) の減少から反転した。結果、輸出の増加が輸入を上回ったため、貿易収支は▲89.65 億ドルと前月 (同▲103.62 億ドル) から大きく赤字幅が縮小している。昨年 10-12 月期の経常収支は、好調な国内景気を反映して輸入の伸びが輸出を上回り、貿易赤字が拡大基調にあったことから、▲120.30 億ドルと前期 (同▲119.40 億ドル) 並みの大幅赤字が続いていた。今後は海外経済の回復に伴い輸出の回復が見込まれることから、徐々に経常赤字が縮小すると見込まれる。

図4 インド 製造業 PMI の推移

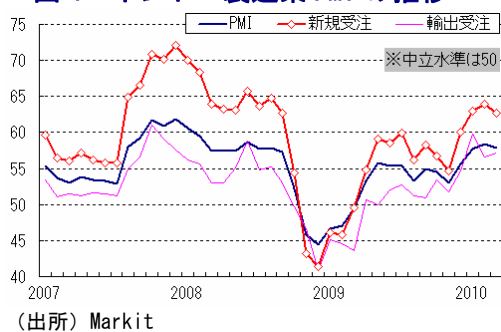


図5 インド 鉱工業生産の推移

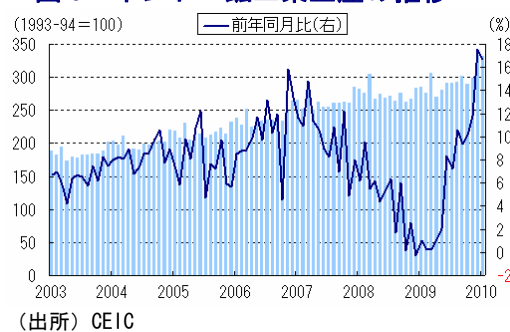


図6 インド 金融政策の推移

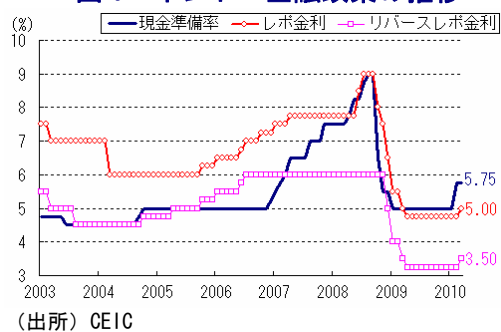


図7 インド 輸出入の推移(前年比)

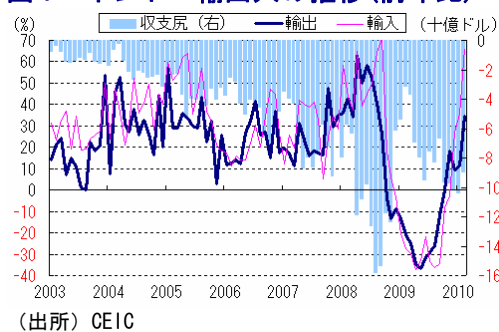
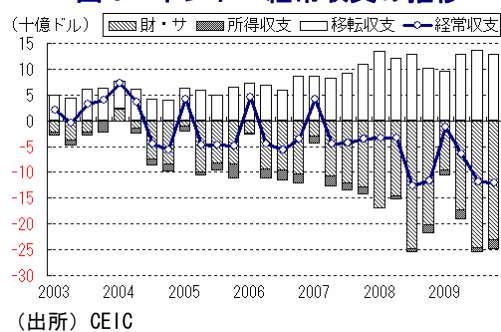


図8 インド 経常収支の推移



【豪州】 ～予想外の小売上の減少。建設需要も頭打ち感を強め、利上げペースは一休みと予想～

31日に発表された2月の小売売上高は、前月比(季調済)▲1.4%と前月(同+1.1%)からマイナスに転じた。雇用環境は輸出産業である鉱業関連を中心に改善が続いているが、昨年10月以降段階的に累計100bpの利上げが実施されて、個人消費の過熱懸念が後退したと考えられる。一方、2月の建設許可件数も前月比(季調済)▲3.3%と前月(同▲5.5%)に続いてマイナスとなっている。金融当局は、先月の定例の金融政策決定会合で2回ぶりに政策金利を25bp引き上げて4.00%としているが、今後も経済成長が潜在成長率並みの回復を続けることを前提に、年内いっぱいかけて金利水準を標準レベルに戻す方針を明らかにしている。6日には次回の金融政策決定会合が予定されているが、2月の会合ではそれまでの利上げの効果を見極めるとして据え置きを決定していたが、足元の個人消費や建設投資の鈍化を踏まえ、今回は4.00%で据え置くと予想する。また、家計部門は昨年来の住宅投資の急増により負債が拡大しているが、今後も利上げは緩やかに実施されると思われ、年末までに5.00%程度に引き上げられると考えられる。

図9 豪州 小売売上高の推移

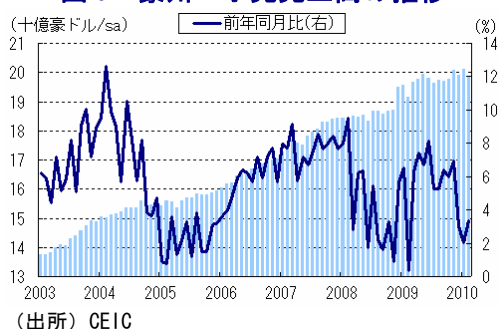


図10 豪州 雇用環境の推移

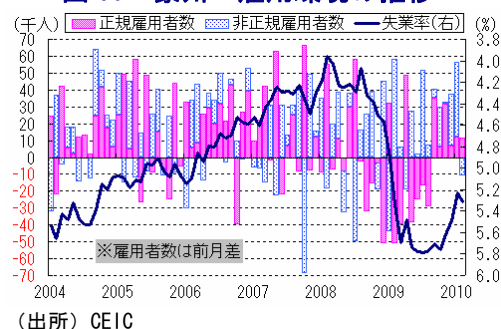


図11 豪州 建設許可件数の推移

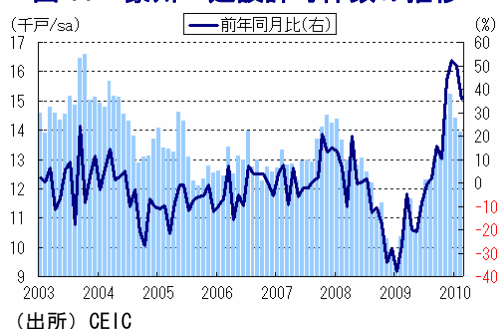
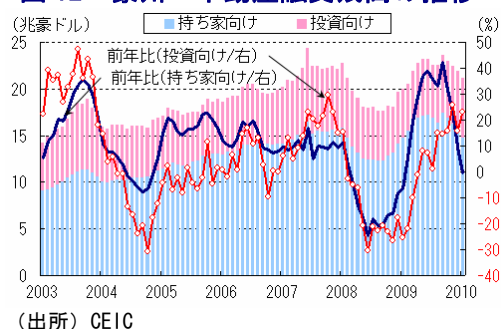


図12 豪州 不動産融資残高の推移



〔韓国〕 ～富裕層を中心とする堅調な内需や、外需の回復を受けて生産の拡大が続く～

31日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+19.8%と前月(同+36.9%)から伸びは鈍化したが、前月比(季調済)は+3.6%と前月(同+0.0%)から増加しており、生産水準は一昨年12月の底から拡大基調が続いている。年明け以降の新年度も政府の景気対策が継続実施されており、2月の小売売上高は前月比(季調済)+1.8%と富裕層を中心に堅調に推移していることに加えて、世界経済の回復により輸出も回復しており、企業の設備投資意欲も回復するなど、景気の底堅さが続いている。

1日に発表された3月の輸出は前年同月比+35.1%と前月(同+30.5%)から伸びが拡大し、前月比も+13.7%と前月(同+7.5%)に引き続き拡大しており、景気拡大の続く中国などアジア新興国向けのほか、中南米や北米向けも回復が進んでいる。一方の輸入も前年同月比+48.4%と前月(同+37.5%)から伸びが拡大し、堅調な内需を反映して前月比も+14.7%と前月(同▲1.2%)から大幅に増加している。結果、貿易収支は+21.94億ドルと前月(+20.75億ドル)から黒字幅はわずかに増加している。2月の経常収支(季調済)は+6.46億ドルと前月(同▲6.54億ドル)から黒字に転じており、当面は経常黒字が続くことが期待される。

図13 韓国 鉱工業生産の推移

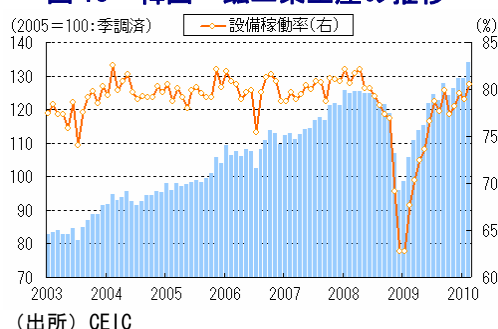


図14 設備投資見通しの推移



図 15 韓国 輸出入の推移

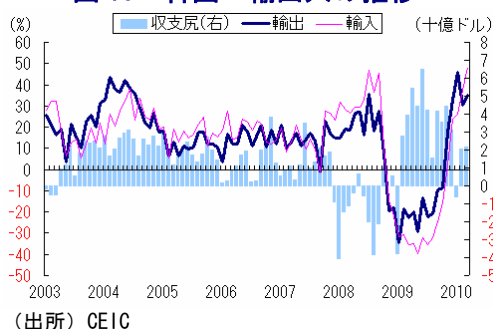
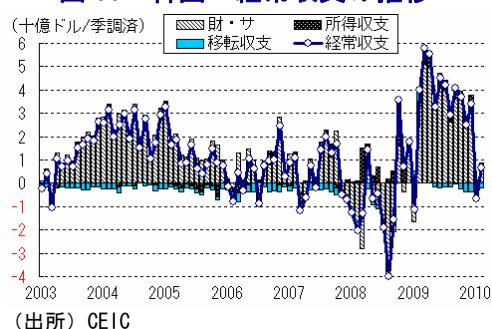


図 16 韓国 経常収支の推移



[ベトナム] ~1-3 月期の GDP 成長率は内・外需の息切れにより前年比+5.8%に鈍化~

30日に発表された1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+5.8%と前期(同+6.9%)から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値ベースの前期比は4四半期ぶりにマイナス成長となるなど、昨年の大規模景気対策による押し上げ効果が剥落した結果、景気が息切れしたものと思われる。中国の春節により中国向け輸出が鈍化したため鉱工業生産が大きく落ち込むなど、生産の拡大基調が一服したことも影響した。また、昨年秋以降、物価上昇圧力が高まっており、個人消費に頭打ち感が出たことも影響している。なお、インフレ率は春先をピークに鈍化すると予想され、海外投資資金の回帰を背景に、成長トレンドは続くと期待される。

図 17 ベトナム 実質 GDP 成長率の推移(前年比)



図 18 ベトナム 輸出入の推移(前年比)

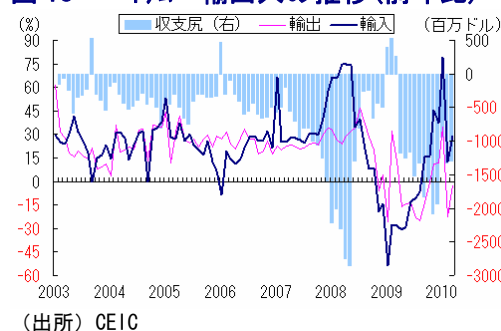


図 19 ベトナム 鉱工業生産の推移

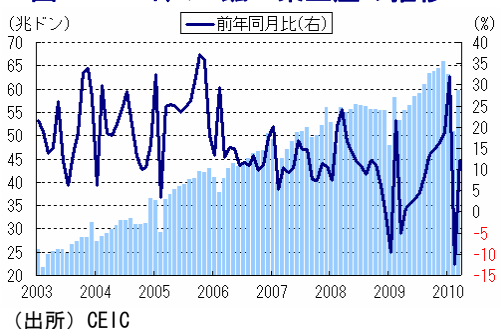


図 20 ベトナム 消費者物価の推移(前年比)

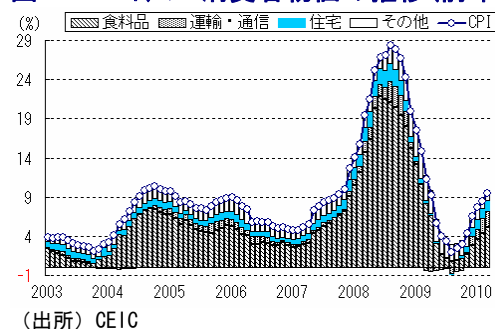
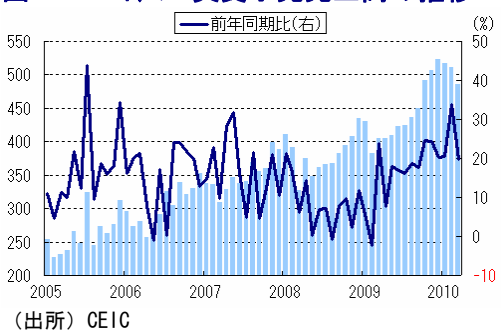


図 21 ベトナム 実質小売売上の推移



以上